



日本の
郷土玩具ばなし
紐・文 佐々木一澄

「宝船だるま」

第7回 仙台張子（宮城県）
たからぶね

波しびぎがかかった宝船に青いだるまが乗り、眉は本毛、目はグリツと飛び出し、全体に金粉が撒かれ、おめでたい空気に満ち満ちています。宮城県仙台市で作られる仙台張子の宝船だるま（松川だるま）です。仙台張子に派手で「ゴテゴテ」としたものが多くは、派手好きで初代藩主伊達政宗の影響と伝えられています。どの張子も愛嬌があり素晴らしいのですが、やはりその代表は松川だるまでしょう。

松川だるまは幕末に伊達藩士松川豊之進が創出し、下級武士の内職として作られてきました。明治時代になると、安政年間（一八五五〜六〇年）に江戸から仙台に移住し、神楽面や能面を作っていた仏師「面徳」の二代目高橋徳太郎が、様々な張子を完成させます。その技術は息子の利三郎が引き継ぎ、現在使われている仙台張子の木型の多くは利三郎の代によるものといわれています。

松川だるまの中でも宝船だるまの豪華さや派手さには特筆すべきものがあります。ただでさえ縁起のいいだるまが儀のたくさん積まれた宝船に乗っているのですから。初めから目が入っているのも特徴で、古いものはガラスの玉が埋め込まれ、まるで本物の目玉のような凄みすら感じさせます。伊達政宗の独眼への配慮もあったのかもしれませんが。

派手なだるまは全国にありますが、宝船だるまはその最高峰といえるのではないのでしょうか。

佐々木一澄（ささきかずと）

1982年東京生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。雑誌、書籍、絵本などの仕事を中心に活動。絵本作品に『からだあいうえお』（保育社）、『うみとりのくからだのはなし』（童心社）など。著書に『てのひらのえんぎもの』（二見書房）、『こけし図譜』（誠文堂新光社）。



Planet VAN VAN
2023 Autumn Vol.140
2023年10月1日発行

発行/株式会社プラネット
〒105-0013 東京都港区浜松町一丁目31番 文化放送メディアプラスビル3階
<https://www.planet-van.co.jp/>

■発行人/坂田政一 ■編集制作/株式会社ダイヤモンド・リテイルメディア

送付先変更などのお問い合わせ先

プラネットコールセンター Tel.0120-023-811 Mail:sc@planet-van.co.jp



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用